

あとがき

この書は、二年掛かりで、大牟田・荒尾市民の有志「道真梅の会」六名の会員と毎月一回の講読会を続けこの三月に全篇を解釈し終えるところまでたどりついたものを一冊の書にまとめたものである。この会は大学等で実施しているゼミ形式の演習のように発表担当を事前に決め、発表者一人が調査したものを資料にまとめ二時間を使って研究発表をし、それに基づいて会員全員で討議を重ねるというスタイルを通した。そして発表後討議をした内容を踏まえて発表原稿に訂正・加筆したものをまとめたものがこの書である。この「道真梅の会」の会員のほとんどが、漢詩に解釈を施すという経験が皆無に近い状況からの出発で、辞書を片手に、限られた時間、限られた資料を紐解くことしか出来ない中で、ここまでたどり着けたこと自体が、賞賛に値することではないかと慰めている。

そこには主要参考文献の項で列記しているように川口久雄先生を始め先学の学恩に負うことなくこうした取り組みを実践することは到底不可能であったことは言うまでもない。その中でもとりわけ、現在『菅家後集』の注釈に、詳細な考察を加えられた一連の論文を公表されている柳澤良一先生の業績に助けられたことが甚大であったことを、この場を借りて改めて深謝申し上げたい。

あわせてこの書を公にするに到るまでの間、多くの方々のご支援があった事に厚く御礼申し上げたい。その中でも特に記すべきことを以下に挙げてみる。

まずは、この「道真梅の会」を【大牟田市民大学ゼミ】という形で二年の長きに亘って会の運営を支えて頂い